

## 教材活用シリーズ 第132回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などをご紹介します。

生徒のよりよい未来へつながる

歴史学習に向けて

（株）新学社  
『未来へつなぐ 歴史資料集』



（株）新学社  
中学事業部編集部

### 1. はじめに

本書は、令和3年度完全実施の新学習指導要領を見据え、令和2年度版にて全面改訂を行って発刊した歴史資料集です。改訂にあたっては、兼ねてより編集協力をしていただいている全国中学校社会科教育研究会の著者の先生方のみならず、多くの先生方に対面や書面でも、先生方が授業のどのような場面で、どのような目的で、どのような資料をご活用されているのかを徹底的に調査しました。その結果、おもに3つの目的で使われていることがわかりました。

まず1つめは、「読み取り考えさせるための論拠」としての使用です。写真資料からわかる変化やグラフなどの数値を読み取らせ、その時代の特色を説明させたり、変化の原因を考えさせたりする際に使われます。2つめは、「興味付け・印象付け」です。歴史であれば、時代の特色を視覚的にとらえさせるために使われます。3つめは、「理解促進」です。教科書では文章でしか表されていないことで、具体的な写真や模式図や地図、表で見ること、理解が深まります。特に歴史の授業では、生徒に「理解促進」をさせるのに、資料集が不可欠な存在となっています。

### 2. 資料を読み取り考えさせるために

新学習指導要領には、歴史の見方・考え方として、「社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりして「働かせると明記されています。このような学習により、歴史の学びを、生きて働く知識や未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力につながる

**45 近代① 産業革命とその影響**

機軸化によって、どのような変化がおこったのかな？

1 手作業による綿糸の生産 (イギリス)

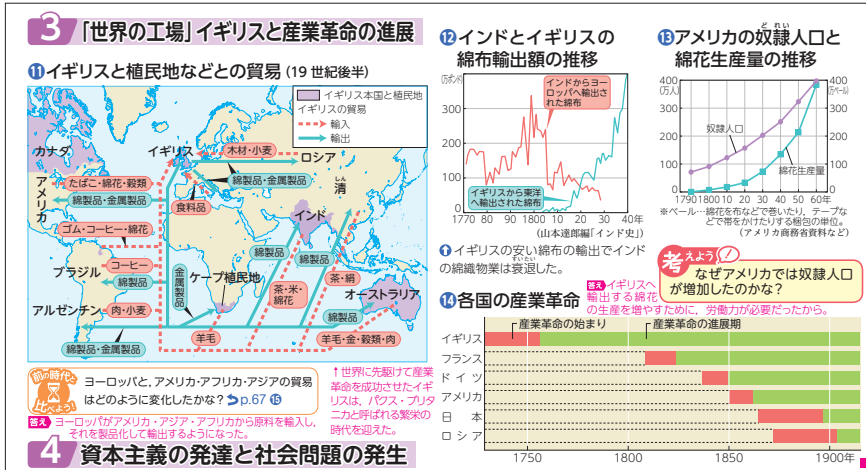
1人1台の紡績車で作業

2 ミュール紡績機による綿糸の生産工場

1人の大人と2〜3人の少年が同時に1600台の紡績車で作業

	1700	1800	1900	2000
日本	江戸	明治	大正	昭和 平成
中国	清	中華民国	中華人民共和国	
朝鮮	朝鮮	大韓民国	朝鮮民主主義人民共和国	

▲産業革命による機械化で、綿糸の生産効率が格段に向上したことを、2枚の写真で示しています。(p.110)



▲イギリスの綿織物業の発達、他の国にどのような影響を与えたか、複数の資料から考えさせています。(p.111)

先生方への調査では、「時代の変化」が読み取れる資料を授業で使いたいが、探しにくいと意見が多く聞かれました。そこで、数値で変化がわかる統計資料を増やす、可能な限り同じページ内で写真が比較できるようにする、異なるページになる場合は、比べやすいレイアウトにそろえるなどの工夫を行いました。加えて、複数の資料を関連付けて活用させる問いを意識的に掲載しました。

3. 歴史への興味を喚起するために

生徒に学習対象となる時代や歴史学習そのものに興味をもってもらうために、従来のような雑学的なコラムだけでなく、「今とのつながり」や「現代との比較」ができるような資料、コラムを掲載するようにしました。

**時代を 実感** 奈良時代の役人に成績表があった？！

律令制度では、現代と同じように役人を成績によって評価する仕組みがあり、年に1回の評価と数年に1回の総合評価で昇進が決められました。上級貴族の子どもたちには一定以上の位階が与えられて優遇されていたため、位階の低い大多数の役人は昇進が遅くなりました。

役人の評価を記した木簡▶

◀◀ その時代やできごとを具体的に実感できるように、生徒の身近なものと比較したり、今の時代にあてはめて解説したりしています。(p.31・33)

**天平** 宝物筆

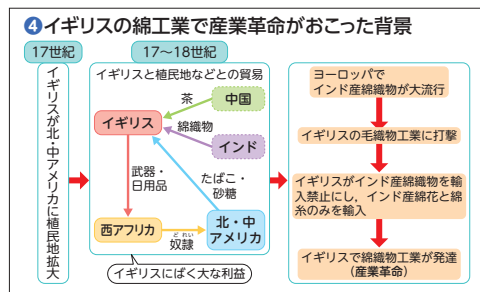
天平宝物筆は、長さが56.6cmある大きな筆で、大仏開眼の法要で、大仏の目を描くに使われたとされる。

一般的な鉛筆の長さ 17.2cm

また、誌面下段に、「今とのつながり」という1行コラムを設けました。現代の生活に欠かさないものが、どのように生み出されたのか、起源や背景に気づかせる内容にしました。

4. 理解を深めるために

近年、教科書の大判化、ページ増が進んでいますが、それでも、見たことのない国や時代を理解するには教科書だけでは不十分です。それゆえ、歴史では「理解促進」のために資料集が活用されます。教科書に文章のみで記載されていることを、模式図化する、写真で例示する、比較表でまとめる、などにより、用語の丸覚えではなく、歴史の流れや構造をきちんと理解できる構成にしました。



▲「流れ」「しくみ」「因果関係」を図解する模式図は、特に力を入れて制作しました。(p.110)

5. 終わりに

社会科の学習を通して、よりよい未来を拓いてもらいたいという願いを込め、3分野の資料集すべてに「未来へつなぐ」と副題をつけました。本書が、生徒のよりよい未来を拓く一助となれば幸いです。